2020 年 5 月 1 日

2019 年度第 4 回セミナー
「野澤和弘 presents メディア×司法×福祉〜東大生はなぜ福祉の世界へ〜」レポート

2020 年 3 月 14 日，日中雪も降るほどの寒さの中，今年度最後のセミナーに 60 名の方が参加してくださいました。今回は弁護士，福祉職だけではなく，当事者・家族，メディア関連の方，学生の方にもご参加いただき，様々な視点での意見交換ができました。ご参加いただき，ありがとうございました。

第 1 部は「東大生が福祉を仕事に選んだ理由」というテーマで，「障害者のリアルに迫る」東大ゼミの運営を経験し現在福祉の道へ進んだ，御代田さんと今井さんの登壇でした。福祉の道に進むきっかけとなったゼミでの出会い，実際の現場での出会いなど，まさにお二人にしか語り得ないライフストーリーを語っていただきました。福祉とは，自分の感覚を使って知っていく仕事であり，多様な人を肯定する仕事と表現し，お二人とも福祉の仕事の多様さを「おもしろい」と捉え「楽しみたい」と話されていたことが印象的でした。また，お二人の話を受けて，野澤さんからは「青年よ，荒野をめざせ」というメッセージと共に，自分の中に「中心」をつくることが，福祉に限らず今後の社会において求められることが指摘されました。

第 2 部では現在大学院でメディアについて研究をされている北村さんと，メディア関連で働かれている山本さんが登壇され，続いて現在東京大学法学部に在籍している山本さんと向井さんにご自身のライフストーリーからそれぞれの切り口で障害・福祉について語っていただきました。二項対立では伝わらない多様性や揺らぎ，言葉だけのやりとりである裁判という場への違和感・嫌悪感など，興味深く率直な問いもあり，第 3 部のフロアとのディスカッションに大きな影響を与えたセッションでした。第 2 部の最後には野澤さんから，TS がどのような背景で生まれたのかなどを説明していただき，野澤さんからしか聞けない内容も多く盛り込んでお話をしていただきました。

第 3 部の登壇者のパネルディスカッションでは，フロアからも積極的な発言もあり様々な立場の方からの考えや意見を伺うことができました。ある参加者からの質問について，人との関わりにおいて「絆は傷を含む」と話されていた今井さんの言葉や，別の参加者からの以下の言葉が非常に印象的です。

命に関わることも，軽い関わりもある。
当事者だからわかることもあるが，当事者でもわからないこともある。
二項対立ではなく，グラデーションのように繋がっている。

グラデーションというのは白でも黒でもグレーでもなく，濃淡とその色の組み合わせ，その方向も自由です。このグラデーションのある未来を東京 TS も一緒に作っていきたいと思える 1 日でした。

来年度も東京 TS ネットでは連続セミナー，事例検討会，更生支援コーディネーター養成講座，当事者の方との活動を行っていきます。

来年度の１回目のセミナーは，６月６日（土）14:00〜17:00,「刑事手続入門（仮）」をテーマに開催予定です。これまで参加したことのない方もぜひご参加ください。

　今回も会場は株式会社 TKC 様にご提供いただきました。新型コロナウイルスの影響もあり特別にご配慮いただきました。株式会社 TKC 様，ありがとうございました。
　また，今年度の連続セミナーは，草の根市民基金・ぐらん様からの助成金によって開催させていただきました。ありがとうございました。
　また，皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

2019年度東京TSネット主催連続セミナー
「生きづらさを抱えた人をささえる」第4回

野澤和弘presents

メディア×司法×福祉
～東大生はなぜ福祉の世界へ～

2020年3月14日（土）10:00～17:00

【コーディネーター】

野澤 和弘 さん

１９８３年，毎日新聞の記者になる。
いじめ，ひきこもり，虐待などに取り組む。
論説委員を１１年したあと，２０１９年１０月退社。
現在は，一般社団法人スローコミュニケーション代表，
植草学園大学客員教授など。障害者のリアルに迫る東大ゼミの顧問・担当講師。

第1部
東大生が福祉を仕事に選んだ理由

御代田太一さん（社会福祉法人グロー（GLOW））
今井出雲さん（千葉県中核地域生活支援センターがじゅまる）

第2部
メディアの黎明

山本恭一郎さん（ＮＨＫ制作局ディレクター）
北村大樹さん（早稲田大学大学院ジャーナリズムコース）

第3部
「幸せな弁護士はいない」は本当か？

山本斐海さん（東京大学法学部）
向井佑里さん（東京大学法学部）

参加費：3,000円

詳細・お申込みは裏面をご覧ください☞